

国語科学習指導案

単元名 主語と述語

指導者 中藪 隆行

学 年 第2学年 男子17名 女子8名 計25名

日 時 平成29年12月11日(月) 第3校時

単元について

本単元は、学習指導要領(平成20年告示による)伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(カ)文の中における主語と述語とが照応することが大切であるということに気づき、文章を読んだり表現したりするときに強く意識できるように指導する単元である。

まず、教材文「お手紙」を題材として、主語と述語の基本型「誰が、どうした。」「何がどうする。」などを提示し、主語と述語という情報が重要であることを気付かせる。

次に主語の位置についての注意点をとり上げる。主語がいつも文頭に来るとは限らないということをおさえておく。

最後に、実生活で起こりがちなシチュエーションを想定して、述語の役割を考えさせる設定がなされている。

児童の実態

本学級の児童は、読書タイムに物語や比較的文章での描写の多い絵本を楽しむ児童がいる一方で、図鑑や短文が使われた簡単な絵本を楽しむ児童がおり、さまざまな文章表現にふれる機会の多い児童と少ない児童に分かれている。また、1文字ずつの拾い読みで、特に初めて読む文では、言葉のまとまりを素早く認識することが難しい児童が数名いる。

また、「主語と述語」の単元のプレテストを行った結果、平均正答率が51.1%であった。平均正答率以上の児童の割合が61%で、平均正答率未満が39%、正答率0%の児童の割合が21%と高く、学力差が大きいという実態がある。

指導にあたって

指導にあたっては、次の点に留意する。

- 学習の流れを示し、活動の見通しを持たせる。
- プレゼンテーションソフトを使いアニメーション効果を活用するなどの視覚支援を行い、主語と述語の関係をとらえやすくする。
- 主語と述語を見付けるときに気を付ける視点を与え、児童に進んで主語と述語を探す方法を考えさせる。
- 単元の終わりにアンプログドコンピュータサイエンスに基づき、主語と述語を見付ける際の思考過程を分類し、その順序について考え、手引きを作成し、それに基づいて主語と述語を探していく活動を行う。筋道を立てて考えることが苦手な児童や、どのように取り組めばよいのか分からず見通しのもてない児童に自力解決できる力を育成する。

単元の目標

- 主語と述語の関係とその役割に興味をもち、身近な文章から主語と述語を見付け出すことができる。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 文が主語と述語で構成されていることを知り、読むときや話すとき、書くときには、主語と述語のつながりが大切であることを理解することができる。
(伝国 (1) イ (カ))

単元の評価規準

(ア) 国語への関心・意欲・態度	① 主述の整った簡単な文から、主語と述語を見付け出そうとしている。
(イ) 言語についての知識・理解・技能	② 主語と述語をはっきりさせて書いたり、話したりしている。 ② 主語と述語の関係を理解し、主述の整った簡単な文の主語にあたる部分と述語にあたる部分を正しく見付けたり、自分の書いた文を見直し、主述の整った文を書いたりしている。

学習計画 (全3時間)

次	時	学習活動	評 価					評価方法
			関 意 態	書 く	読 む	言 語	評価規準	
一 次	1	例文を使って、主語と述語を見分ける。	○				ア①主述の整った簡単な文から、主語と述語を見付け出そうとしている。	ワークシート
	2	主語と述語をはっきりさせて文を書いたり話したりする。				◎	イ①主語と述語をはっきりさせて書いたり、話したりしている。	発言ノート
二 次	3 (本時)	主語と述語を見分けたり、書いた文が主語と述語が整っているかを見直したりするための手引きを作る。				◎	イ②主語と述語の関係を理解し、主述の整った簡単な文の主語にあたる部分と述語にあたる部分を正しく見付けている。	ワークシート

本時の学習 (二次 1 / 1 時)

(1) 本時の目標

- ◎ 主語と述語を見付ける手引きを作ることを通して、主語と述語を見分けやすくし、主語と述語のつながりが大切であることを理解することができる。

(2) 本時の評価規準

- 主語と述語の関係を理解し、主述の整った簡単な文の「主語にあたる部分」と「述語にあたる部分」を正しく見付けたり、自分の書いた文を見直し、主述の整った文を書いたりしている。

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1 既習事項の確認をする。 主語と述語について, 既習の内容を確かめる。 主語⇒だれは (が), 何は (が) 述語⇒どうする (した), どんな だ, なんだ 2 問題文から主語と述語を見分ける。 「今日は雨がふっていたので, わたしは, 家の中で本を読みました。」 3 解答の際に困ったことを出し合い, 学習課題を設定する。 ・主語が二つあった。 ・どこまで選べばよいか困った ・主語の見付け方が分からない ・述語がどこか分からない。	・プレゼンテーションソフトを使って, 視覚支援を行う。 ・授業支援ソフトの双方向通信を用いて, タブレット端末の画面に書き込ませ, 児童の解答を回収し, 電子黒板に表示させる。 ・電子黒板に児童の解答を映し, 比較させたり, 無答の児童に困ったことを発表させたりして, 学習課題づくりにつなげる。 ・児童の困ったことを短冊に書き, 発表順に黒板に掲示していく。(手引き作成の際, 工程の順序を考える場面が設定できるように, 意図的指名を行う)	
主語と述語を見つける手びきを作ろう		
4 手引きに載せる内容や順序を考える。 ○困ったことはどうやったら解決できますか? ・主語が二つあった⇒主語と述語をつなげて意味の通る文になっているか確かめる。 ・どこまで選べばよいか困った⇒語尾に「ね」を付けて文をことばに分ける。 ・主語の見付け方が分からない⇒語尾に「は」か「が」の付くことばを探す。 ・述語がどこか分からない⇒文末に注目し, 「どうする (した)」 「どうだ」 「なんだ」 にあたる部分を探す。	・一つの文に主語は一つであることをおさえる。 ・文節に区切る方法や, 主語と述語をつなげて簡単な文になることは指導する。 ・主語や述語の見付け方については, 児童の発言を用いてまとめる。	

○(工程の)順番を考えましょう。 (予想されるパターン1) ①文節に分ける②主語を見付ける③述語を見付ける④主語と述語を使って短文を作り確かめる(短文がおかしい場合は、②にもどる) (予想されるパターン2) ①主語を見付ける②文節に分ける③述語を見付ける④主語と述語を使って短文を作り確かめる。(短文がおかしい場合は②にもどる) 5 手引きにしたがって、主語と述語を見分ける。	・さまざまな組み合わせが考えられるが、スムーズな思考としては、「予想されるパターン1」と考える児童が多いと思われる。それ以外の組み合わせが主な意見となった場合、パターン1のよさに気づけるような補助発問を行う。 ・授業支援ソフトの相互通信を使って、最初に解いた問題文を再送信し、手引きに沿って主語と述語を見分けさせる。	
6 練習問題を解く。 7 ふりかえりをする。	・手引きを使ったことにかかわっての感想を書くように指導する。	主語と述語の関係を理解し、主述の整った簡単な文の主語にあたる部分と述語にあたる部分を正しく見付けている。 (ミニテスト)

板書計画

主語と述語を見つける手引き

①「ね」を使って一つ一つのことばに分ける。

②主語をさがす。ことばのさいご「は」「が」

③述語をさがす。文のさいごをさがす。

④たしかめる。主語と述語をつなげて、いみが分かる文か、たしかめる。(おかしい文になったら②へ)

○主語が二つあった。↓主語と述語をつづけて読んで、いみが分かる文になるかたしかめる。

○どこまでかこんだらいいか分からない。
↓「ね」を使ってことばを分ける。

○述語がどこか分からない。↓文のさいごの方をさがす。

○主語がどれか分からない。↓ことばのさいごを「は」「が」にする。

○主語と述語を見つけないときに、こまったこと

主語と述語

主語

だれが(は)
何が(は)

述語

どうする
どんなだ
なんだ